

# 第 1 回 運 営 協 議 会 報 告 書

報告年月日 平成 29 年 12 月 25 日 (月)

報 告 者 齊藤 富美子

1. 用務	第1回運営協議会			
2. 日時	平成 29 年 12 月 23 日 (土)			
3. 会場	アイーナ 6 階 講師控室 1・2			
4. 参加者	県企画室 鎌田 憲光	主任主査	センター 野澤 日出夫	センター長
	県企画室 目時 麻由	主査	センター 佐々木 明宏	副センター長
	運営委員 中島 清隆	会長 (議長)	センター 櫻井 則彰	事務局長
	運営委員 生田 弘子	副会長	センター 齊藤 富美子	センタースタッフ
	運営委員 加藤 直子	委員		
	運営委員 鈴木 満	〃		
	運営委員 千田 恭平	〃		
5. 議事	第1回運営協議会開催			
	<p>運営協議会は定刻通り次第に沿って進められた。(資料参照)</p> <p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 代表理事挨拶</li><li>3 岩手県環境生活部環境生活企画室より両センター評価について</li><li>4 議事<ol style="list-style-type: none"><li>1) 両センター事業実績説明</li><li>2) 今後の運営に向けて</li></ol></li><li>5 その他</li><li>6 閉会</li></ol> <p>会議抜粋</p> <p>野澤代表挨拶</p> <p>代表挨拶</p> <p>本日は、年末のお忙しい中、またお寒い中を委員の皆様には、遠路ご参集いただきまして有難うございます。委員の鈴木先生は、大変ご多忙で盛岡までお出でになれず、スカイプでご参加下さいます。</p> <p>県南地域からは、日頃お世話になって居ります千田恭平様に新たに協議会委員にご就任頂きました。また、県当局より日頃ご指導頂いております、目時主任・鎌田主査のお二人にオブザーバーとしてご出席頂きました。ご多忙の中を有難うございます。</p> <p>両センターを運営させていただいて居ります「環境パートナーシップいわて」は、昨年認定 NPO 法人として認定され、これを機に県民から一層信頼されるセンターとなる事を意識して活動してきております。</p> <p>また、全ての活動に於いて「安全確保」を第一として、三役・スタッフ全員「上級救命講習修了者」であり、毎年安全実技講習会を実施し無事故で活動してきております。今後も一層気を引き締めて参りたいと思っております。</p> <p>本日は両センターの運営状況につきまして、ご評価をお願いする事になります。この評価は環境パートナーシップいわてのセンター受託者としての資質・適否も判断されることになります。</p> <p>センター運営は、県の仕様書に基づいて実行しておりますが、今までの経験の上にステップアップした取組みを企画して居り、この事を含めてご評価頂く事になります。</p> <p>NPO 活動方針や課題解決策など、センター活動を含めて重要な施策につきましては、内部委員会である「MG委員会」(Management&amp;Governance Committee)を開催して要所、要所での確認をしつつ進めております。</p>			

また、内部監査では、経理関係は勿論、特にガバナンス・コンプライアンスに関して監査を受け、改善の機会となって居ります。我々の活動は多様であります、一層の充実を図りたく、スタッフの増員や、展示についても他の関係機関（例えば県立博物館）のサテライト的な役割など現在検討して居り多様な連携を深めて、メリハリをつけた効果的な活動にして行きたいと思っております。

皆様ご承知の通り 2015 年 9 月に「SDGs」（持続可能な開発の為の目標）が国連で採択され、これから派生した「ESD」（持続可能な開発のための教育）、COP21 パリ協定の温暖化対策・特に再生エネルギーへの大転換など国際的な取組みが急激に進められていて、日本においても先延ばしできない喫緊の課題であります。

岩手県の電力は、三十数%が企業局の再生可能エネルギーで賄われる施策が進んで居り、「環境王国いわて」として誇るべき事と思っております。また、達増知事の主唱する「幸福度評価」は、将来の目標を「心地よく豊かに生き延びる社会」とする我々 NPO と通じるものでもあり、トランプ政権下でのカルフォルニア州政府の突出した環境政策の様に、資源や環境に恵まれた岩手県においてこそ、思い切った独自路線の政策に転じる時期に来ていると思っております。

このような中で県民の環境・温暖化に対する危機意識は、まだまだ醸成されて居らず、センターの役割として不十分であり、私自身・或いはセンター活動としても大きな Dilemma となっております。

本日は、皆様の忌憚のないご意見を大小に関わらず頂戴いたし、岩手県・両センター活動の改善の機会と致したく思っております。本日は宜しくお願い致します。

野澤代表挨拶に続き、岩手県環境生活企画室鎌田主査より今年度から新たに追加となった評価項目についての説明及び評価の仕方について説明がされた。委員の皆様にはより厳しい評価をお願いしたいと話された。

今年度新たに一関地球温暖化対策地域協議会の千田恭平氏が委嘱。

再任として中嶋清隆氏会長、副会長生田弘子氏 議長は中島清隆氏。

中嶋議長進行のもと会は進行。

1) 事業実績説明（11 月までの実績）櫻井事務局長より

資料 1 の評価シートと資料 2 評価項目について（資料参照）

PP 資料により特筆すべき活動の成果、反省、課題について報告（PP 資料参照）

中嶋議長）：

事業実績説明について何かご意見等ございませんか？

加藤委員）：

- ・評価の変更に戸惑いがある。センターをよく知りわかっていないと評価できない。
- ・センターのアンテナも高くなってきて事例を拾い上げようとしているように感じた。
- ・人員の不足もあるのではないかな。
- ・出張環境学習会で 9 件お断りしなければならなかったのは心苦しいと思うので何とか対応できる方法を。
- ・スタッフだけでは手が足りないだろうからアドバイザー、推進員の協力を仰ぐ。
- ・若いグループとのタイアップも必要か。

千田委員）：

- ・範囲や中身も広くて評価は難しい。
- ・長く続けられるということは経営安定の良い面と新しい視点が入らないなどの面があると思う。
- ・持続可能な岩手の地域社会の実現が大切。
- ・数値だけでは評価できないのではないかな？
- ・カタカナ、英語ではなく皆が知っている言葉で進めてほしい。
- ・現場に出かけることが大切。地域に行って汗をかく。地域の声を聴く。
- ・地元の評価ではなく、国からの評価を受けている団体がある。
- ・温暖化はどんどん進む、太陽光パネル、蓄電池の事、メガソーラーの弊害などを伝える必要。
- ・地域の博物館の展示をセンターに移動し展示するなど
- ・SNS などの発信は良いと思う。メリット、ポイントなどを付けて行うなど良いのでは。

・ウオームシェアという言葉がわかりにくい。メリットを練る必要がある。

生田委員) :

- ・危機感とつながらない思いがある。
- ・時間の流れ、変化についていけない、県民皆が危機感を持つような
- ・格差がある(県北は置いて行かれているような気がする)
- ・県北の推進員がいない
- ・知らないところを拾い上げる努力

中嶋議長) :

鈴木先生両センターの業務実施状況について御意見なりご質問何かありますでしょうか。

鈴木委員) :

組織のリフォームの時期にそれなりの見直しをするというのはよくわかりました。ただ行政的なやり方で評価するのでは時間がもったいないかなと思いました。NPOの良さを活かすためには・・・

NPOの発想とか活力をどう活かすかという発想がないと結局お役所を拡大しているだけの話で皆疲弊する。役所の自己管理機能は人が動くのですよね。なんとなく変わりながらサステイナブルな行政機能にもっていく。NPOはそうではなく同じながいメンバーが視点を変えながら同じ目的に向かっていくという違いがある。行政の手法でNPOを管理するのは危険を伴う。

今回の資料作りも実際の活動時間削って作られたと思いますがこういう時間はなるべく少なくした方がいい。逆の方向でアウトソーシングを考える。

※アウトソーシングとは

ある組織がその事業の一部を外部の専門組織へゆだねる事。「外部委託」「外製化」「外注化」とも呼ばれる。

これは行政の課題だと思います。

外部の者が十分に評価できるかという問題がある。我々は全体的を見る、総論の部分の評価すべきだと思う。数値目標は重要だがそれに引っ張られるのが危険。毎年申し上げているのは少数7名の体制でこれだけのことをやっていることに敬意を表します。ただ過重労働の体制ではないかと心配しています。発想の新鮮さをキープするには少し余裕が必要。自由に考える隙間とか時間がないと毎日の業務に追われ新しいことはできない。一方、行政の中で新しいことをしないといかんという発想も危険な発想だと思う。維持し続ける活動とそうじゃない活動の適正なバランスがあることが大事。新しいことしないからいかんよというのはNPOいじめだと思う。同じことをしているのでは評価できないよというのは中身が伴わない発想である。繰り返しの学習の中で例えば小学生が同じ学年で同じことを繰り返して学ぶことは大事。その中で時代の中で変わっていくところも大事。繰り返していくことの教育的なことは大事。

まとめますとリフォームの時期にどう評価をするのかということですね。やり方については今回の事が一人歩きしないようにしていただきたい。アウトソーシングの適切な在り方を考えるいいチャンスだと思います。選択と事業の継続のために終息という方向性の中にも意味がある。皆さんの労働環境も含め余裕を持った事業ができるような体制をお願いしたい。

重要なことは続けるその中で外部の意見を取り入れる、様々な連携、行政、民間、それから海外等、連携チームそういった方の自由度はすごく重要。

全体としてはシンクグローバリー、アクトローカリーという発想が貫かれていて地球全体を考えるのに非常に重要なプロジェクトと思っています。その中で岩手では何をして行くのかということも綿密な計画の中に出されている。全体的には私は十分な評価をしています。

中嶋議長) :

ほかに委員の皆様何かありませんか。

加藤委員) :

水産業の衰退、林業の荒廃、農業の衰退 私たちが生きていく土台が衰退しているのは問題。スーパーでは地元の、ほうれん草がアツという間に売れる。すぐそこでとれたものは小さくて栄養が多いというのが見えてくる。お家を担っている人たちが考え始め、体にいいことは環境にもいいと気づき始めた。またリサイクルに出す人が増えている。リサイクルの先が気にはなっているが、リサイクルしなきゃと思っている人が増えているのはいいことだなと思う。食生

活改善、男の料理などで環境問題にもシフトしていけるチャンスが無いかなと思っています。繰り返すことは大事だなと私も思っている。アドバイザーとして水生生物も毎年同じことをしているがそれが浸透していると感じる。続けていくということはとても大事です。

生田委員) :

一つだけ確認ですがスタッフの増員とおっしゃっていましたが・・・

野澤代表) :

センターにも常時スタッフ 2 名が必要、外へ出ていく人も必要なのでセンターに常駐する人がほしいと考えている。展示物を単に説明するだけではなくそこからの広がりを考えて探している。予算付けがあるわけではないが置くことによって事業が広がればと思っている。

千田委員) :

今後の事ということなので、センターさんの仕事なのか、県の方の仕事かもしれませんが、日本、岩手が何をすべきか、森林の面積も多いので森林が見直されている。定番の取り組むべき継続事業は大事、改めて中心となる事業は一番何なのかということを中心に持続可能な循環型の社会の構築に想いを馳せて何をすべきか事業に取り入れて見つめなおすべきではないか。それが柱になっていくと思う。そんな気がします。

野澤代表) :

おっしゃる通りです。

それを柱にしたいのです。事業全体の中で我々が動けるところで行っていきたい。

例えば今植えた木が収穫する 60 年後 70 年後は世の中が一変している。農業もそうです。日本の人口は減っているが世界人口爆発的に増えている自由に食物が輸入できる時代はもうあと何年かで無くなると思う。農業ももっとすすめるべきではないか。当然漁業も食料が手に入らないことになる。今すぐ取り組むということにはならないが国の施策を待っているよりは県の施策があると我々も動きやすくなる。

カリフォルニアのようにトランプがなんと言おうが・・・

中嶋議長) :

鈴木先生先ほどお話いただきましたが追加でご意見ありましたらお願いします。

鈴木委員) :

重要なことをより評価していただきたい。カリフォルニアの例のように岩手の先進的な取り組み、草の根的な活動は重要。私は関東におりますので岩手なりのやり方を発信していただきたいと思っている。県民に対してもそうですが中央に対しても発信していただきたい。被災地でおきている復興の知恵等、地方発信の知恵、取り組みはこのサイズでしかできないことがある。全国あるいは、世界にも発信していただきたい。それに対してのプロジェクトがあれば外務省も協力できるのではと思っています。

体制の評価というのはNPOの評価と重複するので無駄のないようなるべく1本化していただきたい。県には理解をお願いしたい。

中嶋議長) : 講評

偉大なるマンネリ、長年続いた番組が時代背景で視聴率取れなくて終わる。後続できたけど視聴率取れなくてすぐ終わる。その繰り返し。新しいことに取り組む大事さもあるが続けていくことのパワーもあると思う。続けるために変わらなければいけないところもあると思うが、続けることのパワーを活かしていくことも大事。10年続けてこられてマンネリしているところは確かにあるかと思われるが、時代に対応できていない、状況に対応できていない、求められる条件も厳しくなる中でどう続けていくか難しさはあると思う。偉大なるマンネリを目指す必要が特に環境だとかエネルギーだとか食だとか基本的な問題を考えていく、対応していくためには大事なのではないか。その一環で両センターの運営、県のかかわり、最終的に岩手県がどのような環境、エネルギー、食、生活を守っていくのか等どのような取り組みをしていくのか、そこはまさに幸福度につながっていくのではないか。

これで本日の運営協議会を終わりとさせていただきます。

櫻井事務局長) :

委員の方には1月12日までに評価を岩手県環境生活企画室鎌田様宛返送願います。

	<p>また運営委員会については今年度もう1回行わなければなりません。3月に行いますので後程日程の確認をしたいと思います。</p>
6. 特記事項	無し
7. 概要・所感	<p>今年第1回目の環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センターの運営協議会が開催されました。新たに県南地域より千田恭平氏を委員にお迎えし、運営委員5名、オブザーバー2名、事務局4名が出席し、初めにオブザーバーであります岩手県環境生活企画室より評価方法の変更についての説明がされました。事務局より11月末日までの両センターの履行状況・活動状況を報告し皆様より貴重なご意見を賜ることが出来ました。</p> <p>運営委員の皆様からは数値だけでは評価できない部分についても触れ、少人数体制でこれだけの事業を行っていることへの評価をしていただきました。また基本となる環境、エネルギー、食、生活に対して続けることの大切さ、それを続けていくためには変えてはいけない基本を大切にし、時代に対応、状況に対応するなど新たな視点を持つことの大切さなどの御意見があり、NPOの持つ発想と活力を活かすことが受託団体として求められている。さらに今後の活動に活かしていかなければと感じた運営協議会でした。</p>